

未来をつくる子ども・若者応援事業

「子ども・若者ゼミナール」

「子ども・若者未来会議」

2025年度実施報告書

2026年1月

愛知県県民文化局県民生活部社会活動推進課

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電話：052-954-6175（ダイヤルイン） FAX：052-971-8736

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/syakaikatsudo/>



目 次

01.

子ども・若者ゼミナール

02.

尾張会場発表内容

04.

三河会場発表内容

06.

子ども・若者未来会議

08.

子ども・若者未来アクション宣言

子ども・若者ゼミナール

開催概要

テーマ：「持続可能な社会の実現とあいちの未来
～多様性を活かした共生社会を目指して～」

国籍や民族などの違いにかかわらず、多様性（ダイバーシティ）と包摂性（インクルージョン）のある、すべての人々が生涯にわたって活躍できる社会の実現に向けて、子ども・若者がそれぞれの意見を交わし合い、子ども・若者目線による解決策や、愛知県の若者が取り組むべきこと等について検討するとともに、主張や提言を社会へ発信する場を設けることを目的として、県内2か所で「子ども・若者ゼミナール」を開催しました。

開催内容

サブテーマごとに分かれた高校生のグループに大学生等のアドバイザーを加え、それぞれの意見を交わし合い、子ども・若者目線による課題や解決策、またその実現に向けて取り組むべきこと等をグループごとにまとめ、他の参加者に向けて発表しました。

【尾張会場】

2025年8月1日（金）愛知県立愛知商業高等学校 参加者49名（13校）

【三河会場】

2025年7月24日（木）愛知県立刈谷北高等学校 参加者28名（13校）

グループ分けサブテーマ

- ①多文化共生：外国人・マイノリティの活躍促進、多文化共生政策 等
- ②ジェンダーと働き方：女性の活躍促進、ワークライフバランス 等
- ③若者と地域社会：若者の社会参画促進、若者と地域とのつながり 等

ファシリテーター

林 徳仁 氏（南山大学国際教養学部講師）

【プロフィール】

韓国・釜山出身。南山大学国際教養学部 専任講師。専門は移民研究、国際社会学、多文化共生論。韓国、日本、台湾をはじめとするアジア諸国や欧州を主なフィールドとし、高度外国人材として移動する女性たちのキャリア形成について、インタビューや参与観察などの質的調査に基づいて実証的に研究している。特に、移動者の選択や生活に影響を与える送り出し国・受け入れ国の政策、制度、雇用・ケア体制に注目している。また、企業や教育機関における高度人材の活用戦略や、地域社会における多文化共生の実現に向けた取り組みについても関心を持ち、研究を進めている。



尾張会場発表内容

グループ	サブテーマ① 多文化共生：外国人・マイノリティの活躍促進、多文化共生政策 等
A	<p>テーマ：技能実習生の支援について～日本の制度の最適解～</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none">・技能実習生が語学教室に通えず独学で日本語を学んでいるため、語学力が低いと感じる。 <p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none">・技能実習生が語学教室に通うための政府の支援が少ない。 <p>○政府が支援するメリット：全国一律の支援が可能。格差が少ない。信頼度が高い。</p> <p>デメリット：個々に対応するのが難しい。</p> <p>○NPO団体が支援するメリット：個人にあった支援。自由度が高い。</p> <p>デメリット：団体によって差ができる。支援が断続的。権限が少ない。</p> <p>【解決策】</p> <ul style="list-style-type: none">・政府が支援する部分と、NPO団体が支援する部分のバランスをとる。（例）政府が制度と支援資金を整理して、NPO団体に支援する。・支援の制度が全国一律のため、どのNPO団体にも規模にかかわらず平等に支援ができる。・政府がNPO団体に支援することにより、個々に対応することが可能となる。
B	<p>テーマ：外国人労働者～日本人と外国人の交流を増やそう～</p> <p>【外国人労働者が困っていること】</p> <ul style="list-style-type: none">・就労ビザ取得が困難→不法労働者が増加。・重労働に就く外国人の安全管理が不十分。・日本語能力に対する研修等が不足→日本語でのコミュニケーションが不要な単純労働に就くしかない。 <p>【解決策】</p> <ul style="list-style-type: none">・交流の場を増やし、異文化体験を行う。・日本語学校やボランティアなどの制度を活用する。 <p>⇒外国人労働者との信頼関係が築け、外国人労働者が働きやすい環境を作る。</p>
C・D	<p>テーマ：外国人生徒への学校の支援～質の高い教育をみんなに～</p> <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none">①言語が異なるためコミュニケーションが取りにくい。クラスの場に入りにくい。②進学・就職についての情報は日本語のみで提供されているため、外国人生徒の進学率・就職率が低い。 <p>【解決策】</p> <p>①個人の取組：やさしい日本語を使用する。翻訳機を使用する。言語以外のコミュニケーション方法を考える。</p> <p>地域の伝統的な遊びを取り入れたレクリエーションを行う。</p> <p>②学校の取組：英語の授業で会話に特化した授業を行う。生徒同士でバディを組み、サポートしながら授業を行う。</p> <p>卒業後も日本で生活するための支援の仕組みを作る。</p> <p>⇒多言語での情報提供や、細かく各家庭に寄り添った情報提供を行う。</p> <p>⇒学校や行政が様々な制度を作ることでもあるが、個人ができることもとても重要である。</p> <p>色々なサポートが関わり合うことで、どのような人でも日本で豊かに過ごせることができる。</p> <p>外国人が増加している今、どのような人でも暮らしやすい国や地域づくりが必要である。</p>
E	<p>テーマ：外国人労働者と地域の人々との共生に向けて</p> <ul style="list-style-type: none">・愛知県は産業がさかん→外国人労働者が多い。 <p>【外国人労働者に関する課題と解決策】</p> <p>○言語面</p> <ul style="list-style-type: none">・マニュアルが日本語→QRコード+音声の多言語マニュアルを作成。・コミュニケーション→就労ビザに日本語レベルの基準を定める。日本語教室の情報を広める。 <p>○宗教面</p> <ul style="list-style-type: none">・イスラム教徒が多い→オフィス内に礼拝場所を設置。食堂メニューのハラール対応。1日5回の礼拝のための休み時間を作る。 <p>○文化面</p> <ul style="list-style-type: none">・日本のマナーがわからない→時間を守ることの大切さや挨拶が大事という価値観を伝える。日本語やビジネスマナーの講座を開講する。 <p>○雇用面</p> <ul style="list-style-type: none">・長時間労働。賃金未払い。労働環境が過酷。ハラスメントに声を上げることができない。→外国人労働者を保護するための法的な政策の強化。地域と連携して企業に対して外国人労働者に関する教育を実施する。 <p>⇒これらの解決策を適切に行うことができれば、愛知県にとどまらず、全国の外国人労働者との共生に寄与することができる。</p>

尾張会場発表内容

グループ	サブテーマ② ジェンダーと働き方：女性の活躍促進、ワークライフバランス 等
F	<p>テーマ：どうしたら男女差別をなくせるか</p> <p>【男女差別の原因】</p> <p>①固定概念：結婚後は女性が名字を変える。男の子だから女の子だから。男はズボンで女はスカート。</p> <p>②男女不平等：女性だけ割引や無料。女性専用車両。</p> <p>【解決策】</p> <p>①広告：CMやドラマを活用して差別や不平等について知る機会を増やす。</p> <p>②教育：子どもの頃から男女差別の偏見をなくし、多様性を尊重することを理解させる。</p> <p>③言葉：何気ない一言や行動が差別につながっていないか考え、使う言葉を少し変える。</p> <p>⇒少しずつの変化を繰り返すことにより、人々の意識や考え方が変わりすべての人が幸せに気持ちよく生活ができる。</p>
G	<p>テーマ：なぜ女性の働く場所は偏っているのか</p> <p>【課題】</p> <p>①社会や政治などの外の仕事：企業の中で上の立場の女性が少ない。国会議員の女性の割合が低い。</p> <p>②家事や育児などの家の仕事：女性も結婚しても仕事をしたい。育児は女性の仕事という考え方。</p> <p>【解決策】</p> <p>・共働きを支援するために、育児休暇の取得を義務化する。</p> <p>・男性も女性も、仕事・家事・育児を平等に行う。</p> <p>・若い世代の意見を取り入れて、若い世代を中心にやってみる。</p>
H	<p>テーマ：子育てをしている女性が社会復帰するにあたって</p> <p>・日本はG7の中でジェンダーギャップ指数が最下位。</p> <p>【原因】</p> <p>・企業における男性中心社会。男性は仕事。女性は家事・育児という考え方。上の世代の偏見。</p> <p>【解決策】</p> <p>①政治：北欧のように政治家の男女比率を決める。アイスランドのように女性総理大臣の誕生。</p> <p>②企業：企業上層部の男女比率を1対1にする。企業の中に保育スペースを作る。</p> <p>③地域：学童やトワイライト、ベビーシッターなどの要因を増やす。地域の中のつきあい育児の負担を減らす。</p> <p>⇒これからの日本を作っていくのは私たち若者である。私たちがこのような会で主張するだけでなく、社会的に影響のある政治に参加することが大切である。</p>
グループ	サブテーマ③ 若者と地域社会：若者の社会参画促進、若者と地域とのつながり 等
I	<p>テーマ：若者が町内会に参加するには</p> <p>【町内会の役割】</p> <p>・資金調達。地域の人々との関わりや助け合い。</p> <p>【若者の町内会参加への課題】</p> <p>・町内会運営に携わる時間がない。面倒くさいと思う人が多い。人間関係など町内会に対するイメージが悪い。</p> <p>【若者が関わる町内会を作るためには】</p> <p>・SNSを活用して回覧板を回す。町内会と学校が連携して授業の一環として行う。地域の企業と連携する。</p> <p>⇒若者が参加しやすくなり若者に町の魅力が伝わる。その結果、町内会と学校・企業との関りが深まり、多くの若者が町内会に関われるようになる。</p>
J	<p>テーマ：若者の投票率の低下</p> <p>【地方の若者が減少している原因】</p> <p>・政治が高齢者向けで若者向けではない⇒若者向けの政治をするためには若者が選挙に参加する必要がある。</p> <p>【若者の投票率低下の原因】</p> <p>・投票に行くのが面倒くさい。投票に行く時間がない。投票場所が少ない。選挙についてよくわからない。</p> <p>【解決策】</p> <p>・学校で選挙についてより詳しく学ぶ。ネットで投票可能にする。投票場所を増やす。</p> <p>⇒若者の投票率が上がることにより、若者向けの政治が行われ、若者のための地域社会になる。その結果、若者が地域や地方から離れることがなくなる。</p>
K	<p>テーマ：地域に興味をもってもらおう</p> <p>【課題】</p> <p>・若者の地元離れ⇒地元の祭りの実行委員会に高齢者が多いなど、高齢化が進み祭りなどの伝統が継承されない。</p> <p>【解決策】</p> <p>・若者向けのイベントを開催し、その中で若者と高齢者が関われる機会を作る。</p> <p>・祭りの参加者に市のキャラクターやアニメとコラボしたグッズを配布する。</p> <p>・子どもたちが小さいころから地域のイベントに参加することで、地域と交流し地元愛を深める。</p> <p>【私たちができること】</p> <p>・SNSを活用してイベントの宣伝を行う。</p> <p>・イベントに高校生がスタッフとして携わることにより、地域とのつながりを深める。</p>

三河会場発表内容

グループ	サブテーマ① 多文化共生：外国人・マイノリティの活躍促進、多文化共生政策 等
A	<p>テーマ：外国人生徒が学校生活を過ごす上での課題・解決方法とは</p> <p>【課題】</p> <p>①言語的要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語が不十分でコミュニケーションがとれない。多言語を学ぶ機会や触れる機会が少ない。言語の取得に長時間かかる。 <p>②環境的要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に不安を感じる。クラスの雰囲気になじめない。学校の支援が不十分。 <p>【解決策】</p> <p>①言語的要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームやスポーツなど言語以外のコミュニケーション方法をとる。 ・言語習得の場として多言語の交流会を開く。 <p>②環境的要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校やクラスの実組として、バディー制度の導入や歓迎会を開く。 ・個人の取組として、外国人生徒に積極的に話しかける。 <p>⇒言語の不十分さに対する寛容な態度を持つべき！</p>
B	<p>テーマ：多文化共生に向けて</p> <p>【どうしたら外国人にとって暮らしやすいまちにできるのか】</p> <p>①社会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題点：差別・偏見。地域社会の孤立。低賃金・長時間労働。 ・解決策：英語に興味がある人を集めて交流機会を作る。学習者のニーズやレベルに合わせた日本語が学べる場所を作る。 <p>②災害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題点：災害時の避難場所での生活。外国人向けのマニュアルがない。 ・解決策：文字＋ピクトグラムを使って表す。アプリを使った情報発信。 <p>③日常</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題点：礼儀作法への戸惑い。購入すべき日用品がわからない。母国の食べ物がいない。 ・解決策：SNSを通じて公共の場所でのマナーや日用品などのアドバイスを発信する。色々な国のマーケットを開く。 <p>⇒外国人の方々にとって暮らしやすいまちは、私たち日本人にとっても、より多様で安心できる社会であるはず。愛知県の多文化共生社会をさらに推進・前進させ、誰もが住みやすいと感じられる社会の実現につなげたい！</p>
C	<p>テーマ：多文化共生するために</p> <p>【理想】</p> <p>言語の壁がなく、国籍・民族に関係なく対等にコミュニケーションがとれる状態。</p> <p>【問い】</p> <p>どうしたら外国人とのバリアをなくせるのか。</p> <p>【バリア（課題）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な配慮の違い。学習の遅れ。不登校。行政の取組。 <p>【解決策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人：積極的にコミュニケーションをとる。相手の言語での言い方を知る。ICTを活用する。 ・行政：日本語教室の実施。外国人生徒同士が交流できるオンラインプラットフォームを作成。 ・個人＆行政：互いに文化を教えあう。宗教的配慮。やさしい日本語を積極的に取り入れる。 <p>⇒外国人の文化を知る＋外国人に文化を教える</p> <div style="text-align: center;"> <p>×</p> <p>とにかく尊重する</p> <p>↓</p> <p>相互理解＝多文化共生</p> </div>

三河会場発表内容

グループ	サブテーマ② ジェンダーと働き方：女性の活躍促進、ワークライフバランス 等
D	<p>テーマ：子どもを「持たない」人にとっての働きやすい社会とは？</p> <ul style="list-style-type: none">・産休、育休を取る人に対する仕組みや認識は改善されてきているが、子どもを「持たない」と決めている人が働きやすい会社にするために、私たちはどのように認識を変えていくべきか。 <p>【どんな会社だったら働きやすいか】</p> <p>○政策：男性の育休が取りやすい。フレックス制。転職・再就職がしやすい。</p> <p>○認識：相談しやすい。ハラスメントがない。働きがいがある。男女間の仲がいい。</p> <p>【子どもを「持たない」女性の悩み】</p> <ul style="list-style-type: none">・仕事好きだと勘違いされそう。・子どもを産みたいけど産めない人が気にしてしまいそう。 <p>【解決策】</p> <ul style="list-style-type: none">・気づかいのしかたを変える。・小さな悩みも真摯に受け止める。・最初の面談で人生設計を話しておく。 <p>⇒多様な考えをもつことが大切。一人一人に合った対応をしよう！</p>
グループ	サブテーマ③ 若者と地域社会：若者の社会参画促進、若者と地域とのつながり 等
E	<p>テーマ：どうしたら若者と地域とのつながりが強くできるか～君たちはどうつながるか～</p> <p>【若者と地域のつながりが大事な理由】</p> <ul style="list-style-type: none">・災害時に協力できる。・伝統が継承される。・地産地消につながる。・他の地域に住む人達が自分たちの地域に関心を持つ。 <p>【どうしてつながりが弱いのか】</p> <ul style="list-style-type: none">・外に出ない若者→SNS依存。・情報不足→イベントや建物、伝統を知らない。・地域への関心がない→地域の魅力を知らない。 <p>【解決策】</p> <ul style="list-style-type: none">・SNSを活用した地域の魅力発信。・若者がよく使う場所の活性化。・若者が行きたくなるイベントづくり。 <p>⇒若者の特徴をとらえ、若者の心をつかむ地域交流を！</p>
F	<p>テーマ：三河地域の活性化</p> <p>【なぜ若者の人口流出が止まらないのか】</p> <ul style="list-style-type: none">・就職で地元に戻ってこない。・若者が三河地域の魅力を知らない。 <p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none">・環境：名古屋市内の大学へ通うのが難しく下宿する。魅力的な場所がない。・政策：補助金が少ない。大学等の教育施設が少ない。 <p>【解決策】</p> <ul style="list-style-type: none">・環境：テーマパークやショッピングモールを作る。野菜や果物の産地で体験できる場所を作る。・政策：地元企業を大学生にアピール。幼稚園・保育園を増やす。SNSを活用して発信する。 <p>⇒年代によってニーズが違うため、年代に合わせたアプローチが必要。</p>

子ども・若者未来会議

開催概要

日時：2025年10月25日（土）13:00～16:00

会場：愛知芸術文化センター アートスペースA

内容：7月・8月に実施した子ども・若者ゼミナールの、尾張会場（愛知県立愛知商業高等学校）及び三河会場（愛知県立刈谷北高等学校）それぞれの高校生の代表者とアドバイザーの代表者が、子ども・若者ゼミナールで話し合った課題や解決策を発表するとともに、グローバル社会で活躍する若者を交えたパネルディスカッションをとおして、子ども・若者目線の主張や自らの未来を切り拓くための決意を「子ども・若者未来アクション宣言」として取りまとめました。

プログラム①【基調講演】

テーマ：「世界とつながる、その一步を。～若者が切り拓く未来の可能性～」

講師：河合 将樹 氏（株式会社UNERI代表取締役）

【プロフィール】

1995年生まれ。イギリス留学、NP0法人ETIC. で学生起業家向けプログラムの運営を経て「地元名古屋から多様なスタートアップが生まれる仕組みをつくる」と考え、2020年に株式会社UNERIを創業。
2022年にSIIFのインパクト投資ファンドで投資業務に従事。2024年には社会課題に向き合う全ての人に向けた、業界最大規模イベント「IMPACT SHIFT」を開催した後、一般社団法人IMPACT SHIFTの代表理事に就任。
2025年にはVC（ベンチャーキャピタル）ファンドを設立し、世界展開を目指す社会課題系スタートアップへの投資事業を開始。
金融庁主催「インパクトコンソーシアム」の地域・実践分科会ディスカッションメンバー。
Forbes JAPAN 30 UNDER 30 2024選出。

プログラム②【子ども・若者ゼミナール報告】

発表者：愛知県立愛知商業高等学校生徒、愛知県立刈谷北高等学校生徒、
愛知県立旭野高等学校生徒、トライ式高等学院生徒
南山大学国際教養学部学生（アドバイザー代表者）

プログラム③【パネルディスカッション】

テーマ：「持続可能な社会の実現とあいちの未来」

パネリスト：愛知県立愛知商業高等学校生徒
愛知県立刈谷北高等学校生徒
南山大学国際教養学部学生

林田 純一 氏（Web・映像クリエイター）

吉川 真由 氏（上智大学 総合グローバル学部1年）

プログラム②③コーディネーター：

林 徳仁 氏（子ども・若者ゼミナール ファシリテーター）



子ども・若者未来会議

パネリスト自己紹介

○林田純一氏

- ・神奈川県藤沢市生まれ、幼少期に名古屋へ移住、現在は山梨県在住。
- ・トビタテ留学JAPANに参加し、オーストラリアでメディカルトレーナーを1年間経験する。
- ・現在は企業向けに Web制作・YouTubeコンテンツ制作や企業・団体の情報発信支援を中心に活動している。

○吉川真由氏

- ・名古屋市内の高校に通っている頃から「第3の居場所」づくりに興味・関心を持ち、トビタテ留学JAPANに参加し、イギリスのユースセンターを訪問する。
- ・現在、大学でアジア・国際政治・国際協力を学習している。
- ・東京で地域活動を学び、地元愛知でノウハウを還元したい。

パネルディスカッション内容

【「多様性を活かした共生社会」と聞いて、どんな社会を思い浮かべますか。】

- ・自分と違う価値観を持っている人がいても、そういう考えもあるのだと受け止められるような社会。
- ・一人一人の違いが認められて支え合いながら生きていける社会。そのためには否定するのではなく、受けとめることが大切。
- ・他の人と違うことや自分が異なることに対して、違うこと自体が自然なのだと思え入れられるような社会。

【学校や地域、職場などで、“多様性”を感じる場面や、課題を感じる場面はありますか。】

- ・学校では様々な考え方や個性を持つ人がいる中で、それぞれの意見を尊重する場面がとて増えてきた。文化の違いを学ぶ授業や個性を生かす活動を通じて、人それぞれのよさがあるということ学んだ。
- ・みんなと同じでないといけないとか、周りの目を気にして自分の考えを言えないという課題もあるため、もっと多くの人が安心して個性を出し、意見を言えるような環境づくりが大切。
- ・小学校や中学校に外国にルーツのある同級生が多数いた時に多様性を感じるが、外国にルーツ＝英語が話せるというような固定観念が課題。

【若者が地域に関わり、社会をより良くしていくために、どんな“つながり”や“場”があると良いと思いますか。】

- ・若者が地域に関わるためには、若者が気軽に参加できる場や若者が無理なく自分の意見を言える場、世代を超えたつながりがあれば良い。
- ・若者が地域と“つながり”を作るためには、若者中心のSNSによる発信だけでなく、回覧板やポスターといったアナログでの発信との両方を生かした“つながり”があると良い。
- ・地域に貢献したい気持ちや参加したい気持ちがあっても、ハードルが高いと感じて参加できない可能性がある。海外のように図書館などの公的な場所を使用して年配の方と若者が集まり、世代を超えた交流や文化・技術の交換を実施すれば、参加に対するハードルは下がるのではないかな。

【2030年の愛知を、どんな社会にしたいですか。その未来のために、今の自分にできる一歩を教えてください。】

- ・困っている人に声を掛けたり、自分の好きなことを通じてつながったり、地域の方に笑顔で挨拶するなど、小さな関わりから少しずつムーブメントが社会に広がり、誰もが幸せに安心して暮らせる社会を目指す。
- ・お互いの違いを認め合い、違いが当たり前だと思える社会にしていきたい。そのためには、私たちが考えていることを積極的に発信していきたい。
- ・積極的な行動を心掛け、今回のようなイベント等に積極的に参加し、他の参加者の意見を聞いて吸収することで、2030年の愛知を多様性のある社会にしていきたい。

子ども・若者未来アクション宣言

子ども・若者未来アクション宣言

2025年10月25日（土）作成

「ともに生きるあいち」

私たちは、違いを認め合い、誰もが安心して暮らせる地域を作ります。

私たちは、声を挙げ、考え、行動することで、ともに生きる社会を育てていきます。

私たちは、未来のあいちを、自分たちの手で描いていきます。

「子ども・若者ゼミナール」に参加した高校生・大学生の声

【参加した感想】

- ・学校の授業ではあまり触れないような内容について、様々な高校生の参加者と意見を交わすことができてよかった。
- ・自分が持っていなかった他の参加者の考えを吸収できる良い機会となった。大学生の方と意見交換し、大学のゼミの雰囲気体験できたこともよかった。
- ・林先生を始め、大学生等のアドバイザーの方々など、社会課題について専門的な知識のある方々と交流ができ、新たな視点を得ることができ大変勉強になった。
- ・子どもの意見が直接反映される機会が少ないため、このようなイベントに参加することで、少しでも社会に貢献できる良い機会だと思った。

【どのようなことが今後に役立つか】

- ・大学で地域政策について学びたいと考えており、今回新たな視点を得ることで私の知識を深めることができたため、今後の大学生活に活かせると思う。
- ・自分の意見を積極的に発することや人の意見を聞くという能力は、今後の人生において必要な能力のため、今回参加した経験は役に立つと思う。
- ・良い発表ができたかどうかより考えることや自分の意見を発信することが大切だと学び、今回の経験を今後の議論に活かしたり、自分の意見をしっかりと考えてから伝えたいと思った。
- ・現代においてとても大事な多文化共生について、他人の意見や考えが聞け、将来自分が意見を言う場面でこの経験は非常に役に立つと思う。

【成長したことや変化があったと思うこと】

- ・社会問題を解決できなくても、そのことについて考え、話し合うことが大切だということを学べた。これからこういった問題について考えていきたい。
- ・テーマについて互いの意見を話し合い目標にどうアプローチしていくのか、という過程を学ぶことができた。また、話し合った内容から何が必要なのか、自分達は何をすべきかということも学ぶことができた。
- ・日本人からの目線だけでなく外国にルーツのある方からの目線など、物事を多角的に見ることができるようになった。また、自分の意見を述べても否定されなかったのも、自分の意見を述べる自信がついた。
- ・若者だからこそできる取組をたくさん見つけることができたので、それを発表して終わりではなく行動に移していきたいと思うきっかけになった。